

願船寺のお手植え銀杏



願船寺のお手植え銀杏 1



願船寺のお手植え銀杏 2

二十四輩十四番願船寺の開基は定信房といい、もとは京都三井寺の学僧であったという。寺伝では、佐竹氏の祈願所として、この地に建立された天台宗の寺であった。

ある日のこと、境内に植えられている梅の木のそばに、16歳の姿の聖徳太子が現れ、定信房に稲田におられる親鸞聖人の元へおもむき弟子になるよう告げて、法名を定信と授かったという。そして、定信は早速、稲田におもむき、聖人から念仏の教えを

聞き弟子となったと伝えられている。

また願船寺は、江戸時代に水戸藩が行った厳しい廃仏棄釈に抵抗したため、本堂の焼きうちに遭った。しかし、以前と変わらぬ本堂を再建し抵抗した。そのため役人の命で住職は本堂の屋根から突き落とされ、転落死したという。

そんな歴史を持つ本堂前には、親鸞聖人お手植えと伝わる銀杏の巨木がそびえており、その激動の歴史を今日まで見守ってきた。